

第31回全国女性行政書士交流会 in 石川

来ました！ KANAZAWA 2024/07/07

県南支部 関 満理子



行政書士上田恵子事務所内 さくら会の代表、大森千歌子先生のお声がけで、全国から女性の行政書士が集いました。福島県県南支部で参加したのは、星野先生、澤田先生、高久先生、関の4名です。

さて、女性行政書士とは、どんな状況なのでしょう。

年度	行政書士数	女性の数	女性割合
2009年	39,846人	4,403人	11.10%
2010年	40,475人	4,559人	11.30%
2011年	41,584人	4,827人	11.60%
2012年	42,117人	4,977人	11.80%
2013年	43,126人	5,216人	12.10%
2014年	44,057人	5,460人	12.40%
2015年	44,740人	5,711人	12.80%
2016年	45,441人	5,910人	13.00%
2017年	46,205人	6,172人	13.40%
2018年	46,915人	6,449人	13.70%
2019年	48,768人	7,035人	14.40%

2020年	49,402人	7,238人	14.70%
2021年	50,510人	7,608人	15.10%
2022年	50,472人	7,648人	15.20%
2023年	51,312人	8,031人	15.70%

社会保険労務士では、40%という具合に女性の比率が高い。しかし行政書士では15%、ずっと低迷が続いている状況です。社労士との差は、やはり顧問契約がとりづらいことでしょうか。

少し分析してみました

強み

- ・「女性の行政書士に依頼したい」という顧客の潜在的な需要がある。
- ・接客の柔らかさやきめ細やかさを活かせる。
- ・子育てをしながらも自宅で仕事ができる
- ・自立した経営なので頑張れば生活への不安はなくなる

弱み

- ・困難な案件が依頼されにくい
- ・認知度が低い

女性のための行政書士相談

離婚関係や家庭問題の書類作成等、女性が相談する時に男性相手では言いにくいこともありますが、同性であれば楽な気持ちで話せます。利用者の気持ちに沿った組織としての対応が大切ですね。

第1部



上野 千鶴子
(うへの ちづこ)
1948年7月12日

日本のフェミニスト・社会学者（社会学博士）。専門は家族社会学、ジェンダー論、女性学。

上野先生のお話し

○社会における男女格差の実態と解決策の提案

感想

○ 今まで男女格差についてあまり意識することがありませんでしたが、データで可視化されるとその実態に驚きました。

格差のない社会を実現するには、それぞれの特性を互いに尊重し役立てていく柔軟な姿勢が必要ではないかと思いました。

第2部

加賀豊年太鼓の公演が行われました



その後の懇親会

○ 全国の女性行政書士が各県ごとにステージ上で自己紹介をいたしました。

北は北海道、南は沖縄県の石垣市まで。歌あり、踊りありのバラエティーに富んだセルフインフォメーションを繰り広げました。中には90歳を超えるお元気な先輩もいらっしゃいまして、さらなる勇気を頂くことができました。加賀豊年太鼓の素晴らしいパフォーマンスを満喫し、沢山の女性会員との交流を深めることができました。

翌日(7/8)の散策コース

○金沢城と兼六園を見学したのち、
眼下に浅野川、向こう岸には金沢城を望む会
席のお店でランチを楽しみ金澤情緒を満喫し
ました。



総括

参加してみて とても有意義であり、意識の改革につながるものでした

次回開催の場合

- レ 改善点
- 継続希望する点

○今回は日曜開催でしたが、一泊すると翌日は月曜（仕事の日）になるので、土曜に開催してほしいと感じました。（お隣の席に座った兵庫からの方は、月曜が仕事なので日曜日の懇親会の後、当日夜に帰られました。）



宿泊したホテル金沢



場所 金沢駅のすぐ近くです